

ライフサポート ひなた (入所)

症 例 概 要 利用者:90代・男性・要介護4

病名:左橈尺骨遠位端骨折、頭部外傷(急性硬膜下血腫合併)

既往歴:慢性腎不全、高血圧、アルツハイマー型認知症

経過:令和2年3月に転倒し上記の部位を骨折し、9月退院後に当施設へ入所する。順調にADLが改善していく中で、11月に尿路感染症を発症し、発熱。その後2日で解熱するものの、ADL低下と共に、運動意欲の低下が顕著となる。

しかし、入所中に出来た、ご友人からの励ましもあり、少しずつリハビリへのモチベーションが向上していく。それに伴い、屋外独歩まで可能となり、退所後の生活も考えるなど、気持ちが前向きになりました。

内 容

まず、入所当初の利用者さんは、骨折の影響から左上肢の振りが少なく、歩行速度の制御や方向転換が不安定であり、サークル型歩行器が必要な状態でした。また、アルツハイマー型認知症により、他の利用者さんを奥様と勘違いして話しかけることもありました。

さらに、令和2年11月頃には、ご友人の不幸があり意気消沈している時に、尿路感染症で発熱しました。解熱後も運動意欲が急激に低下し、リハビリ中に急に泣き出すなど、感情失禁もありました。

その為、ご自身の入所時と現在の歩行動画を定期的に視聴して頂きました。そして、良くなっている箇所をご自身で挙げて頂き、変化を実感してもらいました。

また、入所中に同室となり、ご友人となった方が利用者さんを励まし、お互いに支え合ってくれました。食席の配置を隣同士にするなど、入所介護職員も気配りしました。(現在はコロナ禍のため、食席を離しています)そして、徐々に歩けることに自信が持てるようになり、令和3年2月には屋外歩行独歩が可能となりました。

最後に、自主トレーニングとして5分間の施設内歩行と、自体重でのスクワット20回を、毎日継続して行っております。継続する理由として、「自分が頑張っている姿を見せることで、他の人も頑張りたいから。」と仰っておりました。退所後は健康体操を自分で開催したいという前向きな意識となり、日々リハビリに取り組まれております。